

目指す学校像		21世紀を担う若者としての勤労観・職業観を培うために、高い次元の「文武両道」を教育目標に掲げ、進路指導の充実と部活動の奨励に努め、思いやりのある豊かな心と将来への夢を育むたくましい生徒の育成を目指す。 グローバル化が進む中、異文化に対する理解を深め、真の国際人たるに相応しい資質を養う等、本校が創立以来推進している国際教育の振興に努める。			
昨年度の成果と課題		本年度の重点目標	具 体 的 目 標		達成状況
新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し、各種制限が解除されたことにより、進路指導の充実・部活動の活性化・国際教育活動の推進などについて、積極的に取り組むことができた。 進学では、国公立大99名、私立大715名が合格した。 部活動等では、部活動加入率91%と多く、弓道、陸上競技、水泳、ボクシング、書道が全国大会に出場するなど、各部が熱心に活動を行った。 国際教育活動では、オーストラリア短期留学、ブリティッシュヒルズ英語研修等積極的に取り組んだ。英語検定にも積極的に取り組み、準1級4名をはじめ、多くの成果を出すことができた。 学校行事や環境等を生徒の意見を取り入れ見直すことにより、生徒が積極的に学校生活に取り組むことができている。 高い次元の「文武両道」を目指しているため、家庭学習と部活動の両立に悩んでいる生徒がいることが課題である。自主学習の充実を図り、効率的な学習・部活動が求められている。		学習指導と進路指導の充実と授業改善	① 生徒一人一人の進路実現に向けた、個に応じたきめ細やかな学習指導と進路指導の推進 ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を推進する。 ・各種進路行事、課外、模試のあり方の検討を常に行い、生徒の進路目標達成に努める。 ・生徒による授業評価（授業満足度）の肯定的評価80%以上を目指す。		A
		部活動等の推進	② 第1希望の進路達成と、部活動における人格育成・上位大会出場を目指す「高い次元の文武両道」の実現 ・特別活動、部活動を通して人格育成を推進し、全人的な人間性の向上を図る。 ・部活動加入者の学習の充実を図るとともに、生徒一人一人が文武両道の実現に取り組むよう努める。 ・部活動集会の実施などを通し、学校全体の一体感を深め、上位大会入賞を目指す体制づくりに努める。 ・特別活動において、生徒の主体的な活動により、活力ある学校・クラスづくりを目指す。		A
		国際教育活動の推進	③ 国際理解教育、国際交流活動を通した、国際化に対応できる人材育成の推進 ・オーストラリア短期留学、ブリティッシュヒルズ英語研修の事前・事後研修等の充実、異文化セミナー等を円滑に実施する。 ・ALTの活用、英検準2級全員受験により、国際社会、実社会で通用する英語力を身に付けさせる。 ・留学生や近隣在住の外国の方々との交流を通して、国際化に対応できる人材を育成する。		A
		働き方改革の推進	④ より一層の教育活動の充実のための、業務改善に取り組み、勤務時間の適正化の推進 ・スクラップアンドビルドによる業務改善等に取り組み、勤務時間の適正化に努める。 ・ICT活用等を推進し事務作業の効率化を図る。 ・勤務時間のあり方に関する意識改革を図るとともに、関係者の理解を得られるよう努める。		B
三つの方針		具 体 的 方 策		評 価	次年度(学期)への主な課題
「三つの方針」 (スクールポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	・21世紀を担う若者としての勤労観・職業観を備え、自主的・自律的に学習に取り組むことができる人財。 ・思いやりのある豊かな心を持ち、将来への夢を育むことができるたくましい人財。 ・異文化に対する理解を深め、真の国際人たるに相応しい資質を備えた人財。		a	A ・将来を具体的にイメージし行動する積極性とチャレンジ精神の向上。 ・生徒一人ひとりの個性と可能性を最大限に引き出し、未来を担う人材を育成する教育。 ・本校を理解し、積極的に行動できる生徒の入学につながる、情報の発信。
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	・主体的、対話的で深い学びの推進を図るとともに、上級学校への進路実現を目指す。 ・「文武両道」のもと、全人的な人間性の向上に努め、豊かな心と将来への夢を育むたくましい生徒の育成を目指す。 ・国際理解教育、国際交流活動の推進を図り、国際化に対応できる人材の育成を目指す。		a	
	「入学者の受入に関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	・中学で修得すべき基礎学力の上に、各自の心身の発達及び進路に応じて、本校で高度な学力を身につけようとする生徒。 ・部活動や様々な学校行事に意欲的に取り組み、協働的な学びを大切にしようとする生徒。 ・本校で身につける資質・能力を発揮して、様々な課題に主体的に取り組み、自己と異なる意見も尊重し、国際社会で活躍しようとする意欲のある生徒。		b	

評価項目		具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	評 価		次年度(学期) への主な課題
教科	国語	基礎学力の向上を図る。	・国語に対する興味・関心を喚起し、基礎学力の向上に努める。	a	B	・生徒の自主的な学習を促進する手立て ・授業改善のための ICT 活用や授業内容に関する情報交換
			・生徒が自主的に学習する環境を整え、その態度を育て読解力や表現力の向上を図る。	b		
			・読書習慣を定着させる。	b		
		個に応じた授業の展開に努める。	・生徒の実態に合わせた授業を行い、生徒による授業評価の肯定的評価 80%以上を目指す。	a		
	地歴公民	学力の向上を図るとともに成績不振者に対する指導の充実と徹底をはかる。	・ICT を積極的に活用した分かりやすい授業を展開し、年間の進度に留意しながら日々の授業を行う。	b	A	・新課程入試への対応 ・ICT の更なる活用に向けた創意工夫 ・観点別評価の工夫改善
			・学習の定着化を図るため問題集やプリントを使用し、平日や夏季課外を実施して、共通テストや難関大学の入試に対応できる生徒の学力向上に更に努める。	a		
		学習意欲を高め、自ら問いを見いだせる授業の展開に努める。	・地理歴史、公民に対する興味・関心を喚起した授業を展開する。	a		
			・18 歳成年年齢に向けた政治的教養を育むための授業を展開する。	a		
			・生徒による授業評価の肯定的評価 80%以上を目指す。	b		
	数学	学力の向上を図る。	・平日や長期休業中に個々のレベルに応じた課外を実施し、基礎力・発展的学力の向上に努める。	a	B	・新課程入試への対応 ・授業力向上や効果的 ICT 活用への情報交換
			・観点別評価が行えるような工夫をとりいれた考査やその他のテスト、課題を利用して学習の理解度を把握する。また、生徒自身が学習状況の振り返りを行える機会を設けるなど、個々の生徒の実情に応じた指導を行う。	a		
		自主学習習慣の定着に努める。	・問題集や週末課題等を定期的に点検し、わからないことは随時質問できるような雰囲気作りに努める。	b		
		数学の本質を理解する授業への改善に務める。	・教科担当者同士で授業技術や ICT の活用方法等の情報交換を綿密に行い、新課程入試へ向けた指導力の向上に努める。	b		
			・生徒による授業評価の肯定的評価 80%以上を目指す。	b		
	理科	基礎力・基本的な学力の定着を図る。	・授業計画を立て、教科間で連携をとりながら計画的に授業を進め、学習内容の定着を図る。	a	B	・ICT 機器を効果的に活用し、生徒の知的好奇心を刺激し、学力の向上に利用できるコンテンツの検討。
			・授業中以外でも質問等を受け付け、放課後や長期休業中の課外を計画的に行い、受験体制を整えて受験に臨めるようにする。	a		
		自然に対する興味・関心を持たせ、探究心を育てる。	・観察・実験を通して身の回りの自然環境を理解するとともに、目的意識を持って観察・実験を行い考察する力を養う。ICT 機器を効果的に活用し、生徒の知的好奇心を育て、探究する素地を養う。	b		
			・事象に対しての定性的、定量的な分析ができるようにする。	b		
			・生徒による授業評価の肯定的評価 80%以上を目指す。	b		
	英語	外国語によるコミュニケーション能力を向上させる。	・これまでに学習したことを活かし、主体的・対話的学びにつながる、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を充実させ、コミュニケーションを図る資質・能力を育成する。	b	A	・ICT 活用事例の学年間での共有 ・教科内での相互授業参観の活性化 ・下位層への指導の強化
			・ALT とのチーム・ティーチングやタブレットを使用したコミュニケーション活動を通して、外国語の背景にある文化に対する理解や他者への配慮といった生徒の「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を豊かにする授業を行う。	a		
		3 年間の段階的指導による進路実現を支援する。	・語彙や文法といった言語の基本的な働きを理解させるために、タブレット PC を活用して生徒間で活発に意見交換のできる授業を実践し、指導力の向上に努める。	b		
			・授業での学習を通し、それを補ったり、さらに発展させたりできる課外指導を実施する。	a		
			・普段の授業に加えて、ALT とのチーム・ティーチングや、個に応じた指導等を通して、高校卒業時、60%の生徒に CEFR B1 レベル(英検 2 級合格レベル)の英語力を身につけさせる。	b		
		英語運用能力を向上させる授業への改善に務める。	・授業準備の際、教科担当者同士で教授内容や ICT の活用方法等を共有し、クラス間の内容の差異を減らす。	a		
			・生徒の実態に合わせた授業を行い、生徒による授業評価の肯定的評価 80%以上を目指す。・生徒の実態に合わせた授業を行い、生徒による授業評価の肯定的評価 80%以上を目指す。	a		

評価項目		具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	評 価	次年度(学期)への主な課題
教科	保健体育	生徒一人ひとりの健康の保持増進及び体力の向上を図る。	・県民体操の毎時間実施、体づくり運動、水泳や長距離走を実施するとともに、体育理論と保健の内容をリンクさせる。	a	・男女共修の授業を実施しているが、短時間の限られた種目での実施となっている。今後、男女共修がより求められていくと考え、お互いに遠慮せず楽しめる方策を考えていく必要がある。
			・新体力テストの結果を、自身の現状把握や目標設定に活用する。	b	
		運動・スポーツ活動の計画的実践方法を習得させる。	・選択授業により、生涯にわたる豊かなスポーツライフを実現していくための基礎とし、各学年に応じて段階的に競技会を実施する。また、ICT 機器を効果的に活用し、実践方法を習得させる。	a	
		運動・スポーツに親しむ態度を育成する。	・授業や体育的行事を通して、協調性やマナー、運動に主体的に取り組む態度を育成するとともに、勝敗を楽しむ、他者を尊重する態度を育てる。	a	
			・豊かなスポーツライフの実現のため、スポーツを観る、支えることについて取り上げる。	b	
		保健教育を充実させる。	・視聴覚教材を利用した健康・安全教育を実践する。ICT 機器を効果的に活用し理解が深まり、知識が定着するよう工夫するとともに、生徒が主体的に授業に参加できるよう、ITC の活用方法を工夫する。	a	
		個に応じた授業の展開に努める。	・生徒の実態に合わせた授業を行い、生徒による授業評価の肯定的評価 80%以上を目指す。	a	
	芸術	幅広い活動を通して、生徒一人ひとりの個性の伸長を図るとともに生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てる。	・幅広い活動を通して、芸術への興味関心を高め、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばす。	a	A ・ICT 活用に向けた授業展開の準備 ・授業展開のパターンを豊富にする工夫
			・作品に関する歴史や文化的背景について理解を深め、芸術のとらえ方や考え方を深化させる。	a	
			・鑑賞活動を通し、多くの作品に触れ感性を磨き、想像力や創造力を豊かにして、自己表現能力を高める。	b	
			・生徒の実態に合わせた授業を行い、生徒による授業評価の肯定的評価 80%以上を目指す。	b	
	家庭	生徒の自立を促す。	・基礎的・基本的な知識と技術の定着を図るため、実践的学習を多く取り入れられるよう指導計画の見直しを行う。	b	B ・実習の補足となる ICT 活用方法の検討。 授業計画・授業形態の工夫
		課題解決能力の向上を図る。	・事例検討や対話型学習を通して、広い視野で物事をとらえ、自分の考えをもち表現する機会を設ける。	a	
		個に応じた授業の展開に努める。	・生徒の実態に合わせた授業を行い、生徒による授業評価の肯定的評価 80%以上を目指す。	b	
	情報	主体的に情報を収集し、適切に選択、加工し、外部に表現できるようする。	・情報モラル、情報デザイン、プログラミング実習、問題解決等を通して、現代社会の中で必要な基本的な知識・技術の定着に努め、自ら考えて行動できる力を養う。	a	A ・個々の生徒の実態に応じた指導をより的確に行うためにも、理解度の把握と共通テストを意識した問題づくりを進める。
			・考査や課題、実習レポート、確認テストを用いて学習の理解度を把握し、個々の生徒の実情に応じた指導を行う。	b	
		情報モラルの必要性や情報発信に伴う責任を理解できるようにする。	・情報モラル教育を通して、著作権や個人情報の保護の重要性を認識させ、情報社会を生きるために必要な倫理観を養う。	a	
		個に応じた授業の展開に努める。	・生徒の実態に合わせた授業を行い、生徒による授業評価の肯定的評価 80%以上を目指す。	b	

評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	評 価		次年度(学期)への主な課題
教 務	授業時間を確保する。	・ 急な授業変更や填補にすみやかに対応し、生徒に不利益が生じないように努める。	a	A	・ 教育課程の見直し等追求を続ける。 ・ 成績処理の効率的な方法を整備する。
	教育課程の整備完了を目指す	・ 新教育課程において指導計画、指導方法、評価方法等についての研究を進める。	b		
		・ 教育課程の円滑な運用を目指し、問題点等の修正を行って本校の教育課程を完成させていく。	b		
	本校の魅力発信を図る	・ 学校説明会のよりよいやり方を模索し、中学生が受検したくなる行事になるよう努める。	a		
特別活動	HR 活動を通しての自己研鑽を図る。	・ 各学年と連携するとともに、LHR の更なる充実を図る。	b	B	・ 各行事や生徒会活動において、生徒が自主的に活動する様子は見られるようになったが、主体的に各活動が行われるためには、それを意図した支援が必要である。
		・ 日常の HR 活動や、各行事を通して、豊かな人間性を育てる。	b		
	生徒会活動や行事の活性化に努める。	・ 水桜祭・クラスマッチ等の行事が、生徒主体で開催できるように支援する。	a		
		・ 生徒会が中心となり、より良い学校生活を送るための取り組みが生徒主体で行われるように支援する。	b		
	部活動を奨励する。	・ 高い次元での文武両道を実現するため、加入生徒の競技力や技能向上に対する意識を高める。	b		
		・ 定期的な部顧問会議を開き、新たな運営方針に沿った活動でも有意義な活動ができるよう、情報交換する。	b		
		・ 水桜会館・部室・トレーニングルーム等の管理と整理に主体的に取り組める環境を整備する。	a		
生徒指導	基本的生活習慣の確立と規範意識の向上に努める。	・ 端正な服装・頭髮の指導に努める。	a	A	・ マナーアップにおける地域との連携 ・ 各種講演会の充実 ・ いじめの未然防止 ・ 自転車保険への加入とヘルメット着用の充実
		・ 挨拶や正しい言葉遣いの励行、明るい校風作りに努める。	a		
		・ 携帯マナーの徹底と情報モラルの向上に努める。	b		
	安全教育について、関係諸機関や地域との連携に努める。	・ 交通事故防止と交通マナーの向上に努める。	b		
		・ 交通安全の理解及び緊急時対応の習得に努める。※自転車乗車時のヘルメット着用は、推奨する。	b		
		・ 保険加入、自転車点検等、自己管理ができるように努める。	a		
	いじめの未然防止及び関係諸機関との連携に努める	・ 生徒の自己指導能力の向上及び情報モラル教育の推進に努める。	b		
		・ 保護者との連携を密にするとともに、いじめの早期発見に努める。	a		
		・ いじめが発生した場合、早期解消に積極的に取り組むとともに、関係諸機関との連携に努める。	a		
進路指導	各種進路情報の一層の充実をはかる。	・ 大学入学共通テストや各大学の入試制度などについて、学年・生徒へ適切に情報を提供する。また、オープンキャンパスや各学校の体験事業等への積極的な参加を促すための情報提供を行う。	a	B	・ 進路を自分事として考える意識の向上（生徒が行動するための援助の重要性）、各学年との連携を深める。 ・ 進路に対する保護者の要望が多様化しているため、大学進学だけではなく、他の進路も含めた行事を考える。 ・ トップレベル課外の目的達成のため時期を再考する。 ・ 模試の実施時間について検討をしたい。 ・ 進路生活実態調査のやり方について検討
		・ 大学進学向けに赤本や過去問の充実を図るとともに、進路に応じて、多様な要望に応えられるように図書の購入を行う。また、書籍の一層の活用を図るため、宣伝をし、貸出冊数を昨年(1171 冊)より増やす。	b		
		・ 「進路生活実態調査」を実施し、教員に情報提供をするとともに、生徒理解、指導に役立っているかを検証し、生徒が答えやすい方法、教員が活用しやすい方策を考える。	b		
	各学年・他分掌との連携の強化を図る。	・ 進路行事や指導の内容について、学年間で共有をし、学年間の差がなくなるように努力する。	b		
		・ 講演会など各行事について、各学年と調整して効果的な指導を行う。また、事後検証をし、行事の充実・精選をはかる。	a		
		・ 生徒に還元できる校外研修の内容を教員へ提供をする。	a		
		・ 進学指導においては、個別の大学に応じた指導をするなど、学年の枠を超えてきめ細かな指導を連携して行う。	b		
		・ 模試の効果的活用を図る。学年・教科で結果を分析し、対策を共有する。	a		
	各種行事・各種規定について検討する。	・ 類型科目選択でのコース分けでは、文理変更が生じないように事前指導の充実を図る。	a		
		・ 総合型選抜・学校推薦型選抜制度について、より効果的な指導法・指導体制を構築する。	b		
		・ トップレベル課外、模試監督について外部委託を進め、事後検証をしていく。	b		

評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	評 価	次年度(学期)への主な課題
国際教育	国際理解教育、異文化理解教育を推進する。	・さまざまな国の文化に触れ、理解を深める機会として、外部との連携を緊密に行い「異文化理解セミナー」を充実した行事にする。	a	A ・オーストラリア短期留学の研修内容の計画と精選。実施時期の見直し ・実用英語検定の受験状況の適切な把握と個に応じた指導の充実
		・オーストラリア短期留学・ブリティッシュ・ヒルズ英語研修を通して、異文化への理解を深め、実践的な英語力を向上させ、グローバル社会に対応できる資質を養成する。	a	
		・校外で行われる国際理解教育関連行事やコンテストへの参加を奨励する。	a	
	英語によるコミュニケーション能力の向上を図る。	・プレゼンテーションフォーラム等の大会出場者や、部活動での指導の場面でALTを最大限に活用する。また全クラスで行うティーム・ティーチングの授業を通して、英語で主体的に表現する態度とコミュニケーション能力を養成する。	a	
		・英語科と協働し、英検準2級以上全員合格、およびそれに準じる英語力(CEFR A2 レベル)の養成を目指し、国際社会、実社会で通用する英語力を身に付けさせる。	b	
保健厚生	校舎内外の美化と清掃の徹底、防災意識の向上に努める。	・公共物を大切にする心の育成及び校舎内外を汚さないマナーの向上に努める。	b	B ・清掃に関する生徒の意識変化を考慮し、学校全体でマナーの向上を啓発する必要がある。 ・消火訓練や避難袋を利用した防災訓練を行う。(今年度は天候により未実施)
		・校舎内外の美化と自主的な清掃作業の習慣化に努める。	b	
		・緊急時対応マニュアルに基づき、避難経路の確認と防災訓練を実施し、防災意識の向上に努める。	a	
	生徒の心身の健康管理に努める。	・各種検診を実施し、疾病のある生徒については早期の治療や検診を勧める。	a	
		・心身の健康の保持増進を目的に、生徒の健康実態を速やかに把握し、担任・担当する教員等と協力して、その問題点を解決するため、学年・校内各部署及び保護者と連携し、健康相談やカウンセリング等の実施や健康教育等を実施することで、生徒の学校生活を円滑に進める。	a	
		・熱中症対策講習会を実施し、熱中症の予防・啓発に努める。	a	
	職員の健康管理に努める。	・「衛生委員会」を充実・機能させ、「要精密」「要観察」の職員が健康管理医や主治医に相談し、早期治療に専念できる環境づくりを進める。	b	
		・「定期健康診断」「人間ドック」を勧める。	b	
図 書	図書館の利用の充実を図る。	・教科・学年・他分掌との連携により、図書館の利用を促し、読書活動を啓発し、情報活用能力の向上を図る。	a	B ・スタディホール使用上のマナーの徹底 ・放送委員の活動の活性化と定着化 ・「探究」を行う意義や目的の共有
		・広報活動や行事・研修等を通じて、図書委員会の活性化を図る。	a	
		・図書館及びスタディホールの使用マナーに留意させる。	b	
	視聴覚機器の充実と円滑な利用に努める。	・校内放送機器・体育館放送機器の整備・充実に努める。	b	
		・放送委員会の活動の強化とスタッフの養成を図る。	a	
		・学校行事での放送の円滑な運営を図る。	b	
	3年間を見通した探究の学びを推進する。	・教科学年他分掌との連携により、教科等横断的活動を通して、課題発見ならびに課題解決能力の向上を図る。	b	
		・探究の学びの検証や情報共有を行い、共通理解を図るとともに指導方法の向上に努める。	b	
		・探究活動の成果を生徒が発表する機会を設ける。	a	
渉 外	役員の選出のための情報収集に努める。	・1年生の保護者に対しては合格者説明会で回収する役員経験・協力調査、2・3年生の保護者に対しては年度末に学年・専門委員の継続依頼調査を実施して、慎重かつ適切な人材の委員会への参加を図る。	a	A ・次年度更なる活発な活動を会員の皆さんと連携しておこなっていききたい。
		・小・中学校での役員経験の情報をもとに、本部役員の公募を実施する。	a	
	委員会活動の活性化を図る。	・学年・生徒指導委員会は生徒指導部と連携しながら、学年行事にも参加を促し、その内容の充実に努める。	b	
		・教養委員会は研修内容等の精査をし、充実した研修の企画と、その実施に努める。	a	
		・広報委員会は、保護者に対し生徒のイキイキとした姿が一目でわかる広報誌を作成することに努める。	a	
	P T A・後援会・同窓会の活動の推進を図る。	・それぞれの意見や要望を十分に汲み取りつつ、真摯な態度で主体性をもって対処する。	b	
		・保護者の本校の教育活動への理解・連携を促進する。	b	

評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	評 価		次年度(学期)への主な課題
情 報	本校ネットワークの安全かつ適正な管理運営に努める。	・情報セキュリティ実施手順をふまえ、ネットワーク上の全校共有フォルダの文書等の安全性の向上を図る。	a	A	・教員用 PC やタブレットの更新をよりの確に行えるように計画的に行う。
		・情報漏洩及び不正アクセスを防止するとともにネットワーク機器の保守を定期的を実施する。	a		
		・PC 委員会で各教室の電子黒板の点検をする。授業等で使用する際、円滑な活用のサポートをする。	b		
	本校ホームページ・緊急情報メール配信システムの適正な管理運営に努める。	・個人情報や著作権に十分配慮し、本校の情報を公開し、教育・部活動に関する情報を広く地域に発信する。	a		
		・遅滞なく正確な配信に努める。所属、配信グループの登録を管理する。			
	各種機器、ソフトウェアの保守・更新を行い有効利用を促進する。	・職員室のプリンター及び教員用 PC を更新する。またそれら機器のソフトウェア等のバージョンアップを行う。	b		
		・各種文書、データの安全かつ適正な利用がなされるよう、各部、各学年と連携し、それらの有効利用を図られるように努める。	a		
		・タブレット、電子黒板の使用方法及び成績処理システム、各種ソフトウェア等について、各部・各学年との連携を図り、必要に応じて説明会や講習会を企画する。	a		
	緊急情報メール配信システムの適正な運営に努める。	・遅滞なく正確な配信に努める。教職員限定の配信に利用できるように所属、配信グループの登録を管理する。	a		
1 学 年	生活習慣の確立と高校生らしいマナーの向上に努める。	・服装頭髪等の身だしなみを整える意識を高める。	a	A	・提出物に対する期限厳守の意識を高める。 ・スマートフォン等を利用した SNS のトラブルが後を絶たない。集会などを利用した注意喚起を行い、減らすよう努める。 ・手帳を使用して、個人でスケジュール管理ができるよう指導する。
		・授業の始業時や集会・教室移動・提出物期限等の時間に対する意識を高める。	b		
		・スマートフォン類の使い方について、生徒自身がその特性をよく理解して、場面に応じて正しく使いこなせるような自制心を育成する。	b		
	授業を大切にし、基礎学力の充実や家庭学習の習慣化、適切な文理選択を目指して指導にあたる。	・定期考査や模擬試験の結果を参考にしながら適切に学習指導や進路指導を行う。	b		
		・今未来手帳を利用して PDCA サイクルを習慣化して、自律・自立を促す。	b		
		・英検や GTEC など、外部検定に挑戦することを推進し、そのための環境を整える。	a		
		・自分に合った文理選択を進路テーマとして、個々の進路に応じた面談等の指導を行う。	a		
	文武両道を実践し、学校行事や校外での活動への積極的な参加を推進する。	・部活動への加入率 80%以上を目指し、教室外で学習することの大切さを実感させる。	a		
		・部活動加入者に対して学業と両立していけるように、創意工夫する実践力を育てる。	a		
		・学校行事や奉仕作業などを通して、周りと協力し、自主的に工夫して取り組む態度を育てる。	a		
		・課題超過の状態を解消するため、学年内で情報の共有を密にし、課題の調整を実施する。	b		
	生徒理解に努め、学年団の情報共有を密にし、組織として生徒の指導に当たる体制を維持する。	・面談を一年間に複数回実施して、担任は面談の内容を入力して学年団として情報共有・生徒理解に努める。	a		
		・誰でも意見を述べやすく、不安や課題を共有しやすい環境作りを学年として目指す。	a		

評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	評 価	次年度(学期)への主な課題
2 学 年	基本的生活習慣を確立し、モラルやマナーを守るとともに他者を尊重する態度を育てる。	・挨拶を励行し、場面に応じた言葉遣いや対応ができるよう礼儀正しい態度を育てる。	a	B ・スマートフォンの使い方や服装などを改めて見直しをさせ自制心を養う。 ・自立・自律して進路選択・決定ができるように、また生活習慣を身に付けられるような指導を心掛ける。
		・スマートフォン類の使い方について、生徒自身がその特性をよく理解して、場面に応じて正しく使いこなせるような自制心を育成する。	c	
		・面談等による生徒との対話や家庭との連絡を密にとり、関係職員、スクールカウンセラーとも連携して、生徒理解に努め、生徒一人ひとりが安心して学校生活を送れるように支援する。	a	
	学習意欲、勉強の質の向上を目指すとともに、進路実現に向かって自らを律し自らを伸ばそうとする態度を育てる。	・自らの意思で主体的に学習に取り組む姿勢を育てるとともに学習方法に関するアドバイスを通して学習の質の向上を目指す。	b	
		・学問や学部・学科研究の機会を設け、将来の職業や卒業後の進路実現への意識の高揚を図る。	b	
		・学年職員間並びに学年職員と教科担当教員との連携を密にし、生徒の希望や状況に適した進路情報などの共有を図り、適切かつ有効な支援を講じられるように努める。	b	
	学校行事や部活動を通して、精神を鍛錬し、人間力の向上を図る。	・中堅学年として各部や委員会の中心となって活動し、集団を率いるリーダーシップの育成を図る。	a	
		・部活動や学業成績などの情報交換を学年、部顧問との間で密に取り合い、多面的・多角的な生徒理解に努める。	a	
		・学校行事やボランティア活動への参加を促し、より良い人間関係を築くための社会性を養う。	b	
3 学 年	人間教育の土台であるため、基本的生活習慣の確立、モラルやマナーを身につけ、素直な心や他者を尊重する態度を育てる。	・高校生らしい服装や頭髮を心掛け、集団生活におけるルールやマナー、時間や期限遵守などの基本的な生活習慣を身につけさせる。	a	B ・夏季休業前に文型理型問わず私立か国公立かを選択させた初めての学年である。秋に私立大の倍率が上がる傾向と河合塾から情報が入ったが、今年の結果は来年度の判断材料の1つとなりえる。 ・国公立の工学部の推薦を如何に増やすかが課題。女子の工学部は特にである。
		・自立・自律する心を育てる。	b	
		・面談や家庭との連絡を密にとり、生徒理解・支援に努め、学校生活や進路における不安を少しでも和らげることで、欠席率の低下を目指す。	a	
		・交通ルールの遵守やマナーについて繰り返し注意を促し、登下校中の事故の予防を図る。	b	
	進路目標・自己実現の努力を通して、自己を見つめ、自ら律し、伸ばそうとする態度を育てる。	・進路実現に向けた学習の量及び質の向上を図る。短期・中期的な学習計画を立て、自らの意思で主体的に学習に取り組み、継続できる自己学習能力を育てる。	b	
		・授業、集会による全体指導と個々に対応した個別指導や面談を効果的に織り交ぜながら、生徒自身が進むべき道を自らの力で選択できるよう支援する。	a	
		・探究活動においては、将来を見据えた自己の学びロードマップが描けるように、研究で得た知識をもとに自己の関心分野への理解をさらに深めつつ、自己理解の深化や表現能力の向上を目指す。	b	
	文武両道をやり通すことで、心身の健全な発達や精神を鍛錬するとともに、社会性や奉仕の心も育みながら人間力の向上を目指す。	・部活動や生徒会活動では、最高学年として、各部・各委員会の集団を牽引しながら、他者を思いやる心やリーダーシップの育成を目指す。	a	
		・部活動と学業の両立を最後まで支援し、18歳成人として勉学以外の社会の中で必要なリーダーシップ能力、コミュニケーション能力、責任感、傾聴力の伸長を図る。	b	
		・学校行事やボランティア活動、校外での体験活動への参加を促し、課題発見力、実践力を養う。	b	

判定規準 A(a)：大変よくできた B(b)：よくできた C(c)：ふつう D(d)：やや不十分 E(e)：不十分